

## 令和5年度 第四44回 卒業式 式辞

校庭の桜が色付き始め、春の訪れを感じられる今日のこの佳き日、ご来賓の皆様、保護者並びにご家族の方々のご出席を賜り、ここに令和5年度町田市立真光寺中学校卒業式を挙行できますことを心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました87名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。

今日の日を迎えるまでに、みなさんには、並一通り（なみひととおり）の言葉では、言い表すことのできない様々な出来事があったことだと思います。それらの日々を乗り越えてきた皆さんの努力に対して、深い敬意を表したいと思います。

保護者並びにご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。

この晴れの日を迎えられたことに、感慨もひとしおのことと存じます。また、この場をお借りいたしまして、これまで真光寺中学校にお寄せいただきました、ご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。

さて、私たち真光寺中学校は「多様性」を大切にすることを、折に触れ話をしてきました。社会全体もまた、「多様性」を受け入れることの大切さに気づき始めています。けれども同時に、閉鎖的・排他的傾向を帯びる人間関係のあり方や、寛容さを失い、自分にも他人にも厳しすぎるという社会のあり方が深く根を張っていることも事実です。

そのような社会に船出するみなさんに対して、今日はある二人の素晴らしい表現者の言葉を紹介して、はなむけの言葉といたします。

まずは先日六六八歳の若さでこの世を去られた鳥山明さん。昭和の終わり頃から、「Dr.スランプ」やゲーム「ドラゴンクエスト」のキャラクターデザインを手がけ、数多くのヒット作を生み出した漫画家です。今を時めく「ONE PIECE」の作者尾田栄一郎さんが憧れ、尊敬していた鳥山明さん。彼の代表作が「ド

ラゴンボール」のシリーズです。作品の中で主人公の「孫悟空」はこう語ります。「落ちこぼれだって必死に努力すりゃ、エリートを超えることがあるかもよ！」また、別の場面では「俺がやらなきゃ、誰がやる!!」と叫びます。

デビュー前、鳥山さんは一年間で没原稿＝不採用の原稿を約500ページも描いています。その時の苦しさや、悔しさがある意味バネとなってヒット作に繋がり、セリフとなって世に出ていきました。未知の世界や大人の社会にこれから進んでいく皆さんにとって、どこか勇気を奮い立たせる言葉になってくれるといいなと思いました。

もう一人は谷川俊太郎（たにかわ・しゅんたろう）さんです。昨年12月で92歳になられた、現代日本を代表する詩人です。谷川さんはあるインタビューの中で、「今は、意味偏重の世の中になっています。誰でも、何にでも意味を見つけたがる。意味を探したがる。けれども、意味よりも大事なことは、『何かが存在する』ということ、『ある』ということなんです。存在 するということ、言葉を介さずに感じる

ことがすごく大事で、生きているうえで、意味づけしないでじっと見つめる、じっと我慢するということがあるんです」と、述べています。ここでいう「意味」とは、たとえば役に立つとか立たないとか、美しいとか美しくないとか、そういうことです。

鳥山明さんの「必死の努力」も、谷川俊太郎さんの「意味づけしないでじっと見つめる」も、役に立つとか立たないとかではなく、美しいとか美しくないとかでもなく、そうした意味から離れ、ただ世の中に存在すること、存在そのままの価値を認め、肯定している点で、共通なことを言っていると思います。

ではこの世界で最も確かな存在とは何でしょうか。それは他ならぬ、今ここにいる自分自身 あなた自身です。中学校卒業後のみなさんの人生は、これまで同様、決して平坦な道ばかりではないでしょう。その道のりを歩いていくみなさんには、自らをあるがままに前向きに肯定し、受け入れる心をどうか大切にしてほしいと願っています。

自身が行きたい方向を見つけ、必死に努力することで先は見えてきます。多少くじけたって、立ち止ま

ったっていいじゃないですか。難関やライバルを超える日は、いつかあなたのところにやってくるはず  
す。

さらに、意味から離れて、「ただあること」の価値に気づくことは、究極の優しさであり、強さであり、  
時に人はそれを愛と呼びます。どうか、自分自身を愛してください。自分を愛する心を大切にしてくださ  
い。その自分を愛する心こそが、他人を愛し、世界を愛する心につながっていくのです。そのようなみな  
さんの歩む先には、互いの存在を認めあう、素敵な明日が待っています。素晴らしい未来に向かって歩ん  
でいきましょう。

みなさんの前途が明るく、幸多いことを心からお祈りして、式辞といたします。

そして最後に、もう一度言わせてください。「俺がやらなきゃ、誰がやる!!」

卒業おめでとう。

令和6年 3月19日

町田市立真光寺中学校 校長 矢島 加都美